

(科学研究費補助金「諏訪湖・天竜川水系の物質循環、水循環とマネーフローからの研究」中間報告)

## 諏訪地域における環境意識とネットワーク構造の現状と歴史的变化

### 人文学 (とりわけ歴史学) からの成果と課題

大串 潤児

信州大学人文学部

Popular consciousness about environment, the corporate networking, in Suwa area;  
past and present

OGUSHI Junji

Faculty of Arts, Shinshu University

キーワード：諏訪学、歴史意識

Key words: Suwalogy, historical consciousness, attitude to the past

#### 1. 人文学部の課題意識

諏訪・天竜プロジェクトへの人文学的観点からの課題は以下のようにたてられていた(大串潤児「諏訪地域における環境意識とネットワーク構造の現状と歴史的变化(仮)」諏訪・天竜プロジェクト報告会、2003・3・18)。

- (1) 諏訪地域における事業者間ネットワークの現状分析
- (2) ネットワーク構造の前提となる組織の倫理観と地域環境
- (3) ネットワーク構造と環境問題への対応の関連
- (4) 環境問題、地域の歴史について意識の史的分析

以上をふまえて、2003年9月19日の「信州大学環境研究シンポジウム・地域と環境を考える」において、「人文学から地域環境を考える ネットワークとく風土」、諏訪地域の事業者間ネットワークの分析結果と、く風土」という観点からの問題提起を行うことが出来た。

これを一くぎりとして、若干のメンバー変更があり、04年度は大串のみが科研費プロジェクトに携わることになった。

#### 2. 成果と課題

以上のような状況のもと、諏訪・天竜地域を対象に、

循環や環境・く風土>やネットワークをキーワードとして歴史学の観点からいくつかの課題を再設定し、以下のような成果を挙げつつある。

(1) 諏訪地域における歴史的環境と人間社会について、個別的には①諏訪四賀村区有文書の保存管理を通してみる人びとの歴史意識と地域環境意識、②ビーナスライン問題を通じてみる環境意識、を挙げていたが、地域の事情もあり有効な調査研究は困難な状況となっている。

(2) 『南信州』新聞紙上に、飯田・下伊那地域を対象とした戦後史の通史を連載している。これは必ずしも、このプロジェクトの趣旨と同一テーマを扱うわけではないが、関連するいくつかの事実が検討対象となっている。

第一に、佐久間ダム建設をめぐる諸問題が最近、関心を集めつつある。代表的には、町村敬志編『開発の時間・開発の空間『佐久間ダム』再考』科学研究費基盤研究B(2)2003年度報告書が挙げられるが、一九五〇年代の佐久間ダム補償や農業利水問題が地域社会に与えた影響について、新聞連載紙上で論述する予定である。

(3) 人文学部独自のプロジェクトである「内陸文化研究」の一環として戦後長野県の観光政策・観光を巡る世論動向についての分析が成果を収めつつある。

周知のように、戦後長野県は観光立県を一つの目標

として掲げ、それは現在においても重要な政策として維持されている。同時に、地域内産業との関係のなかで観光政策ないし観光をめぐる議論は行われているのであって、こうした動向を見ることから、地域住民の環境意識の歴史的 성격に一定の照明を当てることが可能であると思われる。

(4) 以上を通じて、循環を単純に物質循環として把握するのみではなく、歴史的視点を持ちつつ地域社会を対象にし、都市（中小地方都市）－農村関係の問題（社会的循環－人口移動など）や地域内経済循環を通じた「地域学」（岡田知弘「農村経済循環の構築」田代洋一編『日本農村の主体形成』筑波書房 2004）について、一定の貢献を目指したい。

(5) 諏訪地域については、史料調査が想定した以上に困難であり、諏訪四賀村神戸地区地域史や岡谷市小井川地区などについての個別研究は進展しなかった。

(6) 関連する業績は以下の通り。

大串潤児「戦後長野県内における観光関係新聞（一）『観光信州』『観光信州』『しなの観光民藝』」『内陸文化研究』第3号、2004年2月、45-59頁

大串潤児「戦後長野県内における観光関係新聞（二）『信州観光タイムス』」『内陸文化研究』第4号、2005年2月、61-72頁

大串潤児「『南信州』にみる伊那谷の戦後史」『南信州』連載、第1回（2003年10月4日）～第54回（2005年2月3日）、継続中。